

## 1 圏域の概要

### (1) 水産業の概要

#### ①圏域内に位置する市町村及び漁業協同組合の概要

当圏域には、余市町、古平町及び積丹町が位置し、小樽積丹国定公園の指定を受けていることから、非常に多くの観光客が入り込んでいる。

さらに、PB等の海洋性レクリエーション目的に訪れる人も多いため、水産物自体が観光の目玉の一つとして地域経済に大きく貢献している。

漁業協同組合については経営強化のため合併を既に行っており、余市郡漁業協同組合及び東しゃこたん漁業協同組合が存続している。

#### ②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域では、主として刺網漁業、えび籠漁業、イカ釣り漁業が営まれているほか、採介藻漁業着業者も多い。

ホッコクアカエビ、スルメイカ、タラ、ホッケ、キタムラサキウニの漁獲金額が圏域全体の漁獲金額の4割程度である。

近年はニシンの種苗放流や資源管理の実施により、水揚げの回復が見られる。

当圏域内におけるニシンの資源状況について、刺し網の目合規制等により若齢魚、小型魚の漁獲が抑えられ、産卵親魚が安定的に確保されているため、資源水準は、10年以上連続して高水準と評価されている。

#### ③水産物の流通・加工の状況

当圏域内で水揚げされた漁獲物は、古平漁港の産地市場や他の荷捌所に集約され、仲買業者を仲介して各地に流通する一方、非常に多くの観光客が入り込むことから、地元でも鮮魚が消費されている。

また、古平町ではタラコ加工が盛んであり、全国的な知名度を誇っている。

#### ④養殖業の状況

カキ、コンブ等の養殖事業に取り組んでいるが、何れも小規模にとどまっている。

#### ⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域全体の漁業協同組合員は339人だが、高齢化が進み、着業者の減少が予想される。

#### ⑥水産業の発展のための取組

ウニ、アワビ、ニシン、ヒラメの種苗放流、カキ、コンブの養殖事業を実施しているほか、ムール貝のブランド化に取り組んでいる。

なお、環境保全のため、磯焼け対策の取組も行っている。

⑦水産基盤整備に関する課題

近年は、漁獲量の減少が見られることから、環境への負荷軽減や回復効果が求められているほか、漁港整備年次が古く、岸壁及び護岸が老朽化している漁港が多く、放置した場合に、漁労活動が制限され、大幅な水揚げの減少を招くことから、既存漁港施設の長寿命化を行う必要がある。

なお、日本海側の厳しい波浪状況により、港内静穏が十分に保てない等、漁船の係留損傷や安全航行等に支障をきたすため、防波堤の整備や、港内及び航路の浚渫を実施する必要がある。

また、大規模地震発生後の背後集落への緊急物資輸送機能の確保及び漁業活動の早期再開のため、耐震強化岸壁等の整備を進める必要がある。

そして、安全で安心な水産物を求める消費者ニーズの高まりから、陸揚げ・出荷時の衛生管理の向上を図る必要がある。

⑧将来的な漁港機能の集約化

圏域内の漁港施設について、統合や廃止の予定はない。

積丹町内の7漁港の内、3漁港に荷捌所が立地しているが、将来的には古平漁港に立地する産地市場への集約化が必要である。

(2) 圏域設定の考え方

|         |  |   |
|---------|--|---|
| ①圏域タイプ  | 流通拠点型  | 設定理由：<br>水産物を集約する産地拠点港があり、消費地や工場に出荷しているため。  |
| ②圏域範囲   | 余市町、古平町、積丹町  | 設定理由：<br>古平漁港に集約される範囲を基準として設定した。  |
| ③流通拠点漁港 | 古平漁港   | 設定理由：<br>古平漁港は、産地市場を有しており、水産物の集出荷拠点となるため、流通拠点漁港とした。<br>なお、防災・減災対策として、防災計画及びハザードマップを作成している。また、当該漁港では、衛生管理対策に取り組んでいる。                     |
| ④生産拠点漁港 | 1) 余市漁港<br>2) 美国漁港<br>3) 幌武意漁港<br>4) 日司漁港<br>5) 余別漁港 | 設定理由：<br>1) 余市漁港は、地先に優れた漁場を有し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、ハザードマップを作成しており、災害に対し、的確かつ迅速に対処するための施設の改善等を検討している。 |

|   |                  |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
|---|------------------|--|---------|---|-------------------|-----|--|--|------------------|-----|--------------------|---|
|   |                  | <p>2) 美国漁港は、地先に優れた漁場を擁し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、積丹町原子力防災退避等措置計画、積丹町地域防災計画及びハザードマップを作成している。</p> <p>3) 幌武意漁港は、地先に優れた漁場を擁し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、積丹町原子力防災退避等措置計画、積丹町地域防災計画及びハザードマップを作成している。</p> <p>4) 日司漁港は、地先に優れた漁場を擁し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、積丹町原子力防災退避等措置計画、積丹町地域防災計画及びハザードマップを作成している。</p> <p>5) 余別漁港は、地先に優れた漁場を擁し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、積丹町原子力防災退避等措置計画、積丹町地域防災計画及びハザードマップを作成している。</p> |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| ⑤輸出<br>拠点漁港   | 該当無し             | 設定理由：  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| (令和元年)  |                  |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| <table border="1" data-bbox="263 1473 718 1749"> <tr> <td>圏域の属地陸揚量<br/>(トン)</td> <td>10,140</td> </tr> <tr> <td>圏域の総漁港数</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>圏域で水産物の水揚実績がある港湾数</td> <td>余市港</td> </tr> </table> | 圏域の属地陸揚量<br>(トン) | 10,140   | 圏域の総漁港数 | 9 | 圏域で水産物の水揚実績がある港湾数 | 余市港 |  | <table border="1" data-bbox="746 1473 1214 1659"> <tr> <td>圏域の登録漁船隻数<br/>(隻)</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>圏域内での輸出取扱量<br/>(トン)</td> <td>—</td> </tr> </table> | 圏域の登録漁船隻数<br>(隻) | 545 | 圏域内での輸出取扱量<br>(トン) | — |
| 圏域の属地陸揚量<br>(トン)  | 10,140           |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| 圏域の総漁港数   | 9                |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| 圏域で水産物の水揚実績がある港湾数   | 余市港              |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| 圏域の登録漁船隻数<br>(隻)  | 545              |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |
| 圏域内での輸出取扱量<br>(トン)  | —                |  |         |   |                   |     |  |  |                  |     |                    |   |

⑥「養殖生産拠点地域」について  
該当なし。

## 2 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

##### ・生産・流通の機能強化

当圏域内の漁港において、航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化や、波浪による港内静穏性が十分に保たれない等、漁船の損傷による経費がかかるため、防波堤の整備や港内、航路の浚渫事業を進める必要がある。

衛生管理対策について、流通拠点漁港である古平漁港では、平成25年に完成した荷捌施設は衛生管理マニュアルに基づき運営されており、北海道漁連主催の衛生管理講習会に漁協職員が参加し、衛生管理に対する意識の向上を図っている。

荷捌所や冷凍冷蔵施設、屋根付き岸壁が充実してきており、今後、関係者の衛生管理意識の向上や、施設の効果的運用を図るためにソフト施策を講じていく必要がある。

#### ② 養殖生産拠点の形成

該当なし。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

##### ・海洋環境の変化への対応

当圏域の漁獲量はスルメイカ等の回遊性資源が多くを占めているが、これらの漁獲量は海洋環境の変化や資源量によって大きく左右される。特に近年、海洋環境の変化等によりスルメイカやスケトウダラの漁獲量が減少しており、持続可能な漁業生産を確保する上で、生産量の減少、不安定化が課題となっている。

このため、生息環境の整備により漁獲量の安定、増加が期待される魚種として、ソイ類やアイナメといった魚類未成魚の育成場や、資源管理協定など資源管理の取組が行われているカレイ類、種苗放流されたヒラメ等の生息場を造成する。

##### ・新たな資源管理と連携した漁場整備

当圏域の漁獲量は、資源状況の悪化等により減少していることから、水産物の持続的・安定的な供給体制の構築が必要である。

ウニの身入り改善等に向けた試験施設による蓄養試験、稚ナマコの成長率・生残率の向上を目的とした試験礁の追跡調査に取り組んでいる。

##### ・藻場・干潟等の保全・創造

磯焼け現象が継続している状況にあり、食害生物（ウニ）の密度管理、栄養塩の供給、母藻の設置、種苗投入及び岩盤清掃などによる藻場保全の継続が必要である。

水産多面的機能発揮対策事業を活用したウニの密度管理を実施するとともに、新たにコンブの着生基質（ロープ）を設置する。

## ②災害リスクへの対応強化

### ・漁業地域の安全・安心の確保

南海トラフ等の切迫した大規模地震・津波等の自然災害に対する漁港及び背後集落の安全確保のため、施設の機能診断を行いつつ、漁港施設の地震・津波対策の推進が必要である。

### ・被災後の地域水産業の早期再開

災害リスクに備えて、被災時の建設業や漁協と連携した事前の備え・初動体制の強化が必要である。また、BCPを策定する必要がある。

### ・持続可能なインフラ管理の推進

老朽化や機能の低下した漁港施設の機能回復を図るため、機能保全計画の見直しなどの対応が必要である。

### ・新技術の活用等による効率化・省力化

漁業者等との連携・協働を図る必要がある。

## (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「海業」による漁村の活性化

#### ・漁港の活用促進

当圏域は、大都市である札幌市に近いこと、プレジャーボート利用のニーズが多く、漁港の活用が進んでいる。また、釣り客も比較的多い。

プレジャーボートの利用ルールの徹底により漁業者との共存を図る。

また、安全に関する啓蒙・啓発が必要である。

#### ・地域活性化の取組との連携

新型コロナウイルスの影響により、漁協青年部による出前授業や観光イベントが軒並み中止となっていることから、SNSなどのインターネットを活用し、地域情報を積極的に発信する必要がある。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

#### ・就労環境、生活環境の改善

高齢化する漁業者や女性の就労環境の改善は、担い手確保にあたり重要であるため、屋根施設整備が必要である。

また、快適な生活環境の整備も担い手確保にあたり重要であり、当圏域内の積丹町において、漁業集落排水施設及び水産飲雑用水施設が整備されているが、耐用年数を超過している施設が多いため、機能保全計画に基づき長寿命化対策が必要である。

### 3 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

| 地区名 | 主要対策   | 事業名        | 漁港・港湾名 | 種別 | 流通拠点 |
|-----|--------|------------|--------|----|------|
| 古平  | 流通機能強化 | 直轄漁港漁場整備事業 | 古平漁港   | 3  | ○    |
| 美国  | 流通機能強化 | 直轄漁港漁場整備事業 | 美国漁港   | 3  | —    |

##### ② 養殖生産拠点の形成

| 地区名 | 主要対策 | 事業名 | 漁港・港湾名 | 種別 | 流通拠点 |
|-----|------|-----|--------|----|------|
| —   | —    | —   | —      | —  | —    |

#### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応強化による持続可能な漁業生産の確保

##### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

| 地区名   | 主要対策         | 事業名           |
|-------|--------------|---------------|
| 石狩湾周辺 | 環境変化<br>資源管理 | 水産環境整備事業      |
| 古平町   | 藻場・干潟        | 水産多面的機能発揮対策事業 |
| 積丹町   | 藻場・干潟        | 水産多面的機能発揮対策事業 |

沖合に魚礁を整備することによって、沿岸で成長したソイ類、アイナメといった魚類未成魚の育成の場、生息の場づくりを行うほか、資源管理協定や網目制限などにより資源管理の取り組みを行っているカレイ類、栽培漁業の取り組みで種苗放流されたヒラメ、ミズダコ、タラ、ホッケの生息の場づくりを行うことにより、水産資源の回復・増大を図り、海域の生産力を向上させる。

##### ② 災害リスクへの対応強化

| 地区名 | 主要対策 | 事業名 | 漁港名 | 種別 | 流通拠点 |
|-----|------|-----|-----|----|------|
| —   | —    | —   | —   | —  | —    |

#### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

##### ① 「海業」による漁村の活性化

| 地区名 | 主要対策 | 事業名 | 漁港名 | 種別 | 流通拠点 |
|-----|------|-----|-----|----|------|
| —   | —    | —   | —   | —  | —    |

現在、具体的な施策は計画されていないが、漁港機能の集約・分担の可能性の模索や漁港の「海業」への活用等、既存ストックの有効活用について関係者と検討する。

##### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

| 地区名 | 主要対策 | 事業名    | 漁港名   | 種別 | 流通拠点 |
|-----|------|--------|-------|----|------|
| 美国  | 生活環境 | 漁村整備事業 | 美国漁港  | 3  | —    |
| 幌武意 | 生活環境 | 漁村整備事業 | 幌武意漁港 | 1  | —    |

|        |      |        |            |   |   |
|--------|------|--------|------------|---|---|
| 入舸     | 生活環境 | 漁村整備事業 | 入舸漁港       | 1 | — |
| 日司     | 生活環境 | 漁村整備事業 | 日司漁港       | 1 | — |
| 野塚     | 生活環境 | 漁村整備事業 | 野塚漁港       | 1 | — |
| 余別(来岸) | 生活環境 | 漁村整備事業 | 余別漁港(来岸地区) | 4 | — |
| 神岬     | 生活環境 | 漁村整備事業 | 神岬漁港       | 1 | — |

#### 4 環境への配慮事項

魚礁漁場と周辺の天然漁場を含め沿岸の藻場から沖合の魚礁まで魚類等の一体的な生活環境が創造され、未成魚の保護・育成効果が期待できる。

#### 5 水産物流通圏域図

別紙のとおり。

# 北海道（後志、石狩）水産物流通圏域図

## 余市・積丹圏域

「流通拠点（一般）型」

流通拠点：古平漁港(3)

圏域総陸揚量：10,311 t

圏域総陸揚金額：4,066 百万円

漁港9港、港湾1港

## 神恵内・岩内圏域

「生産力向上型」

圏域総陸揚量：4,521 t

圏域総陸揚金額：1,537 百万円

漁港5港、港湾1港

## 寿都・島牧圏域

「流通拠点（一般）型」

流通拠点：寿都漁港(3)

圏域総陸揚量：7,455 t

圏域総陸揚金額：1,977 百万円

漁港11港

## 石狩・小樽圏域

「流通拠点（一般）型」

流通拠点：小樽港

圏域総陸揚量：16,724 t

圏域総陸揚金額：4,169 百万円

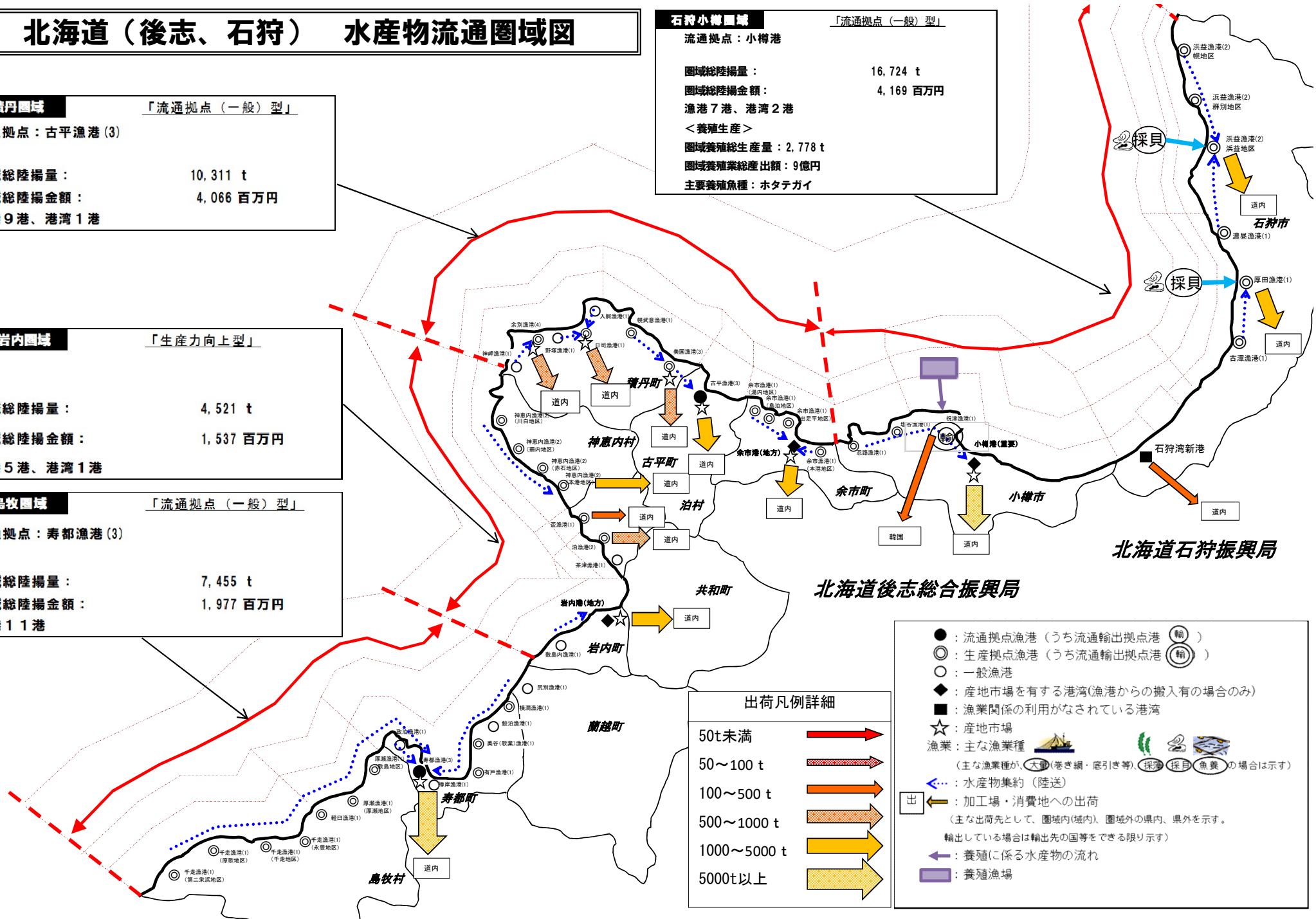
漁港7港、港湾2港

<養殖生産>

圏域養殖総生産量：2,778 t

圏域養殖業総産出額：9億円

主要養殖魚種：ホタテガイ



北海道後志総合振興局

北海道石狩振興局

|             |           |
|-------------|-----------|
| 50t未満       | 赤い矢印      |
| 50~100 t    | 赤い点線矢印    |
| 100~500 t   | オレンジ色点線矢印 |
| 500~1000 t  | 黄色点線矢印    |
| 1000~5000 t | 黄色点線矢印    |
| 5000t以上     | 黄色点線矢印    |

- ：流通拠点漁港（うち流通輸出拠点港）
- ◎：生産拠点漁港（うち流通輸出拠点港）
- ：一般漁港
- ◆：産地市場を有する港湾（漁港からの搬入有の場合のみ）
- ：漁業関係の利用がなされている港湾
- ☆：産地市場
- 漁業：主な漁業種  
（主な漁業種が、**大鮫**（巻き網・底引き等）、**採漁**、**採貝**、**魚糞**の場合は示す）
- ⋯：水産物集約（陸送）
- 出 ←：加工場・消費地への出荷  
（主な出荷先として、圏域内(域内)、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等をできる限り示す）
- ←：養殖に係る水産物の流れ
- ：養殖漁場